奈良県郷土資料　①

大すきな　ぼくの町

「あした、わたしたちの　町の　すきな　ところを　しょうかいする　新聞づくりを　します。どんな　ところを　しょうかいする　るか、考えて　おきましょう。」

シゲルは　2年生。きょうの　帰りの　会で、先生が　そう　おっしゃいました。シゲルの　学級(きゅう)では、今、自分たちの　町に　ついて　しらべて　います。学校からの　帰り道、シゲルは　（どこに　しようかなあ。）と、ずっと　考えて　いました。

「お帰り、シゲル。」

すぐ　目の　前で　声が　しました。びっくり　して　顔を　上げると、お母さんが　立って　います。

「あれ、お母さん。きょうは　しごとじゃ　ないの。」

「きょうは、たまたま　早く　おわったのよ。シゲルが　そろそろ　帰って　くるかなと　思ってね。」

シゲルの　お母さんは、ふだん、しごとが　いそがしく、家に　帰るのは　おそく　なっ

斑鳩町の風景

てからが　多いのです。お母さんが、と中まで　むかえに　来て　くれて、シゲルは　ちょっと　てれくさいけど、とても　うれしく　なりました。そんな　シゲルに　お母さんが　えがおで　言いました。

「シゲルが　考えごとなんて　めずらしいわね。何を　じっと　考えこんで　いたの。」

「うん。あした　新聞づくりを　するんだけど、町の　どこを　しょうかいしようかなあって。ぼくは、法隆寺に　しようかなって　思うんだけど。」

「そうね。法隆寺は　木で　つくられた　世界で　一番　古いたて物よね。きょうまで　多くの　人たちの　手で　たいせつに　まもられて　きた　ものだし。いいかも　しれないね。」

お母さんの　ことばに　うなずきながら、シゲルは　心の中で　思いました。

（でも、ぼくが　ほんとうに　法隆寺の　ことが　すきなのは、小さい　ころ　お母さんと　よく　遊びに　行ったからなんだ。いっしょに　おべんとうを　食べたなあ。楽しかったなあ。）

歩いて　いる　うちに、竜田川に　出ました。川には　大きな　こいが　およいで　います。

「お母さん、きょうも　たくさん　こいが　およいで　いるよ。」

お母さんは、ちょっと　遠くを　見つめるような　目を　して　言いました。

「ここから　こいを　見ると、シゲルと　いっしょに　さんぽした　ことを　思い出すわ。あなたが　ようやく　コマつきの　じてん車に　のれるように　なった　ころ、よく　この

川の　ほとりを　さんぽしたのよ。あなたは　いつも　こいを　見て、よろこんで　はしゃいで　いたわ。ふふ、楽しかったなあ。」

（へえ、お母さんも　楽しかったなあだって。へへ、さっき　ぼくが　思って　いたのと　同じだな。）頭の　中に、小さな　ころの　自分と　お母さんの　えがおが　うかんで　きて、シゲルは　なんだか　あたたかい　気もちに　なりました。

「クリーンキャンペーンの　とき、シゲル、おじいちゃんと　竜田川の　そうじを　してたじゃない。ごくろうさま。今は　いそがしくて、なかなか　いっしょに　さんぽも　できないけど、きれいな　竜田川の　ほとりを、いつまでも、きょうみたいに　シゲルと　歩きたいわ。」

竜田川の　ほとりは、もみじが　とても　きれいな　ところです。そんな　もみじを　まもる　ために　おじいちゃんたちは　草とりを　したり、川の　そうじを　したり　して　いるのです。じつは、おじいちゃんに　いわれて、（めんどうくさいなあ。）と　思って　して　いた　シゲルは　少し　はずかしく　なりました。

お母さんと　話しながら　帰ると、家までの　道のりは　あっと　いう　間でした。シゲルは、なんだか　前より、もっと　もっと　法隆寺や　竜田川の　ことが　すきに　なったような　気が　しました。

竜田川

「お母さん。新聞の　だいは、『大すきな　法隆寺と　竜田川』に　するよ。」

シゲルは、法隆寺や　竜田川の　けしきと　いっしょに、一生けんめい　草とりを　して　いる　おじいちゃんの　すがたや、おべんとうを　食べたり　さんぽしたり　して　いる　自分と　お母さんの　えがおを　新聞に　書こうと　思って　いました。（早く　あした　に　ならないかなあ。）そんな　シゲルを、お母さんは　あたたかい　えがおで　見つめて　いました。

○　シゲルが、もっと　もっと　法隆寺や　竜田川の　ことが　すきに　なった　ような　気が　したのは　どうしてでしょう。

○　みなさんも、思い出の　ばしょや　大すきな　ばしょが　ありますか。

奈良県教育委員会
http://www.pref.nara.jp/gakko/（学校教育課Webページ）